

尖圭コンジローマは、ヒトパピローマウイルス（HPV6型と11型）の感染によって発症する性感染症です。性行為により皮膚や粘膜にある小さな傷から侵入して感染し、性器や肛門周囲に乳頭状またはカリフラワー状のイボを形成します。イボは白、ピンク、褐色と様々で、大きさは径1~3mm前後が多いとされています。

感染してもすぐには発症せず、潜伏期間が3週間から8カ月（平均2.8カ月）あります。自覚症状はほとんどないといわれているが、痛みや痒みを感じることもあります。自然治癒力は20~30%と低く、短期間で次々と新しいイボを形成し増殖していきます。また、治癒しても他の部位への転移が多く再発を繰り返すことが多い。

尖圭コンジローマの治療は、薬剤治療と外科的治療の2つに分かれます。

薬剤治療 1. ヨクイニン

2. 5FU軟膏 : DNA合成阻害作用 (保険適応なし)
3. プレオマイシン軟膏 : DNA合成阻害作用 (保険適応なし)
4. ベセルナクリーム : 尖圭コンジローマ治療薬

外科手術 1. 液体窒素凍結療法 : 麻酔はせず、イボを液体窒素で何回か凍らせて取り除く

2. 電気焼灼 : イボの周囲に麻酔をして電気メスで焼く
3. 炭酸ガスレーザー蒸散 : イボの周囲に麻酔をしてレーザー光線で取り除く
4. 外科的切除 : イボの周囲に麻酔をして専用の器具で切除する

5FU軟膏やプレオマイシン軟膏では、正常な皮膚細胞にもダメージを与えてしまう為、皮膚炎・皮膚糜爛・皮膚潰瘍などの副作用が出現する事があります。また強力な抗生剤としての作用を持ち合わせている為、菌交代現象としてカンジタを併発してしまう事もあります。

また外科的治療では、痛みを伴ったり、傷跡が残る可能性があります。

ベセルナクリーム 5% (持田製薬)

一般名 : イミキモド

効能・効果 : 尖圭コンジローマ (外性器または肛門周囲に限る)

薬効・薬理 : IFN- α の産生促進を介したウイルス増殖の抑制及び細胞性免疫応答の賦活化によるウイルス感染細胞の障害により、ウイルス感染に伴う疾患に対して効果を発揮すると考えられています。

用法・用量 : 疣贅部位に適量を1日1回、週3回、就寝前に塗布する。

塗布後はそのままの状態を保ち、起床後に塗布した薬剤を石鹸を用いて、水または温水で洗い流す。

- 使用上の注意：
1. 他の部位の疣贅には使用しないこと。
 2. 塗布後 6~10 時間を目安に洗い流すこと。
(塗布時間の延長により重度の皮膚障害が現れやすくなる)
 3. 連日塗布を避ける。(月・水・金、あるいは火・木・土の週 3 回)
週 3 回塗布と連日塗布での完全消失率はほぼ等しく約 50%であり、副作用の発現は週 3 回では 10 分の 1 にまで軽減するため、連日塗布は避ける。
 4. 疣贅にのみ薄く塗り、クリームが見えなくなるまですりこむこと。
 5. 使用期限は原則と 16 週までとする。

保存方法 : 凍結を避け、25℃以下

副作用 : 紅斑(54.7%)、びらん(34.3%)、表皮剥離(32.8%)、皮膚障害及び疼痛(28.1%)
連日塗布により発現率及び重症度が高くなったとの報告がある。
週 3 回塗布と連日塗布での完全消失率はほぼ等しく約 50%であり、副作用の発現は週 3 回では 10 分の 1 にまで軽減するため、連日塗布は避ける。

症例 1. (S48 36 歳 男性 A 皮膚科)

H21.06.19

①ベセルナクリーム 5% 250mg 5 包
1 日 1 回 夜 (1 日おき)

H21.07.31

①ヨクイニン散「コタロー」 4g 14 日分
分 2 朝・夕食前

H21.08.11

①ヨクイニン散「コタロー」 4g 10 日分
分 2 朝・夕食前
②ベセルナクリーム 5% 250mg 7 包
1 日 1 回 夜 (1 日おき)

症例 2. (S59 25 歳 女性)

H21.03.09

①ベセルナクリーム 5% 250mg 3 包
1 日 1 回 夜 (1 日おき)

液体窒素処置後、3 包のみ処方あり

H19 年 12 月発売以降、25 歳~45 歳男性 6 例、25 歳女性 1 例の計 7 例の症例がありました。
使用期間としては、1 週間 1 例、3~4 週間 3 例、6~8 週間 3 例で、確認できた 4 例の中でピリピリとした刺激があったのは 1 例でした。